

世界トレイル0 日本代表決定

田中 博

木村治雄選手は語る。
日本で代表になっただけで、
世界トップクラスの実力があることは証明済み。我々に
解けない課題はない。

トレイルオリエンテーリング世界選手権 2012 日本代表選手 総合クラス

小泉辰喜 (東京 OL クラブ)
初出場
今年度全日本チャンピオン

木村治雄 (入間市 OLC)
4年連続 5回目出場
ハンガリー大会銅メダリスト

山口拓也 (浜松 OLC)
2年連続 3回目出場
団体戦 6位入賞

パラリンピッククラス

高柳宣幸 (横浜 港南 OLC)
3年連続出場

森長三 (長崎県佐世保市)
3年連続出場

木島英登 (大阪府豊中市)
9年連続出場
団体戦 6位入賞

チームマネージャー: 小山太朗
マネージャー補佐: 田代雅之

ロンドンオリンピックを前に

今年6月6日からスコットランドで
開催の世界トレイル0選手権大会の日本
代表選手が決定しました。

今年の WTC は諸般の事情から、フット
のスイスとは別に、トレイル単独で、
スコットランドで開催されます。ゴルフ
で有名なセントアンドリュース近くの、
あの荒涼たる海岸線を想像すると、
トレイルとしては、かなり難しい地形
が予想されますが、果たして、蓋をあ
けるとどうなるか? 大変興味がわか
ます。

コースセッターは長年 IOF のトレイ
ル0の技術面を引っ張ってきた、イギ
リスのパーカー氏が務めます。第1回
の WTC (スウェーデン) の時、次年度
開催ということで、日本から視察に行
った、小山さん、高橋さん、田中の3
人を特別に、WTC のコースに入れて
コントロールの解き方を教えてくれた
人物であり、世界トレイル0界の重鎮

であります。どんなコースを提供して
くれるか、非常に楽しみです。

さて、わが日本チームですが、今年こ
そ、今年こそ金メダルと 昨年も言っ
ていました。総合クラスは厳しい国内
選考を勝ち抜いてきた代表選手です。
平常心を保つ、緊張感を持続する。ス
コットランドの地図、地形に順応する。
コースセッターの意図を洞察する。な
どなどトレイル0ならではのメンタル
面での戦いに勝ち抜いて、本当に、今
年こそ メダル・それも一番輝く色
のメダルをとり、スコットランドの空
に君が代を響かせてくれるでしょう。
皆様の熱い応援をお願いします。

選考課程についてのコメント

杉本トレイル0委員長、

JOAトレイル0委員会では、今年
度世界トレイル0選手権大会の日本代
表選手を以下のような課程で選考しま
した。

オープンクラスでは、まず昨年10月
に新潟で開催された第7回全日本選手
権大会の優勝者である小泉辰喜が決定。
次に 2009年のハンガリー大会で銅メ
ダルを獲得、昨年のフランス大会でも
5位に入賞し団体戦の6位入賞にも貢
献した木村治雄を、委員会からの推薦
選手として今年2月に決定しました。

木村は今季、岩槻大会と全日本大会
のコースプランナーも務めており、日
本の第一人者であることは衆目の一致
するところ。今年の世界選手権は6月
の開催であることから、推薦選手
の選考については選考対象大会の終了
を待たずに早めの決定といたしました。
3人目は、選考対象大会(岩槻・全日
本・狭山・茅ヶ崎)のポイントで並ん
だ山口拓也と山口尚宏のうちから、今
季の安定した成績と将来性に鑑みて山
口拓也を選考しました。

パラリンピッククラスについては、
初めて全日本大会を制した高柳宣幸に
加え、第1回大会から9回連続の代表
であり上位入賞を期待される木島英登
と3回連続の出場となる森長三を選考
いたしました。

個人戦・団体戦共にスコットランド
でのメダルの獲得を大いに期待いた
します。

木村治雄

今回特に心がけていること

感覚を大事に。日本ではあまり使わ
れない草が生えた場所がトレイン、
地面が直接見えないところでイメー
ジをあわせる感覚を磨いておく。実
力どおりのものを発揮したい。

メンタル面、身体面

もう5回目のでれた。緊張するこ
ともない。ただ、体力が落ちた。目
も衰えが始まった。集中力も以前ほ
どないが、集中する場面を絞って使
うことで手順にリズムを加えて正
解を拾う流れを作っている。実は体
力が必要な競技。本当はもっと体力
をつけたい。

海外の試合での注意点

生活面では現地にあわせるしか
ない。現地の気候、現地の食事、そ
の他現地のあらゆるものを受け入れ
られないとストレスがたまるばかりで
ある。それでは所詮結果が出ない。
シェフやらトレーナーやらを帯同さ
せるリッチな競技団体ならいざ知ら
ず、何も用意されないし試合のため
以外何もしないのが基本形。観光気
分はできるだけ排除。だから今まで
カメラを持っていったことがない。
試合は試合で、どこでやっても同じ。
ただ遠くに行くのが面倒なだけ。特
別な試合だとか余計なことを考えて
自分で勝手に転んでしまうことだけ
が注意点。トレインの持っているポ
テンシャル以上に難易度の高いコン
トロールを設置することはできない。
日本で代表になっただけで、世界ト
ップクラスの実力があることは証明
済み。我々に解けない課題はない。

トレイル0の大会で心がけていること

以前は色々考えて気負うことも多
かったが、最近は心がけるというほ
ど意識している事柄はない。大会当
日や前日とかではなく、普段から競
技を意識してプラスになると思
うことをする。毎日何らかのトレー
ニングをしている。ただ、フットO
を競技するのもプラスと以前は考
えていたが、今はやめている。

特に印象深い大会名とその理由

2006年米本路憲君追悼大会（自身初の3位表彰台）

2010年欧州選手権（日本団体、優勝国を上回る成績で特別表彰）

米本君とは面識がなく、彼の業績が紹介されていたブースで、オリエンテーリングの発展に尽力していた人物であることを始めて知った。私自身が上位に入った初めての大会であり、後の飛躍へのきっかけとなった。地図好きであった彼は空から我々を応援してくれているはずであり、ぜひ英国の地から日本の空へ向けて選手権獲得の報告をしたい。

山口拓也

今回特に心がけていること抱負

過去2回の世界選手権出場で、2回とも初日（Day1）に5失点しています。

2日目（Day2）のモチベーションにも関わらず、このような大量失点はなんとかして避けたいです。

前回はモデルイベントの内容を気にしすぎた節があるので、「トレイル0をすればいい」という原点を忘れないように取り組みたいと思います。

トレイル0の大会で心がけていること

この質問をされるまであまり心がけているという自覚がなかったのですが、競技中に空腹にならないようにスタート1時間前以内におにぎりなどを食べるようにしています。競技中に空腹を感じるとやはりどうしても集中力を欠くので、できるだけそれを防ぐ意味で。正午をまたぐような競技時間になる大会が最近多いので、注意したいところです。

道具類でいうと、コンパスの保管の際には梱包材にくるんで箱の中に入れてあります。角が欠けるようなことがあると、いやなので。

特に印象深い大会名とその理由

やはり2005年秋インカレのトレイル0大会です。過去「優勝を目標に掲げたうえで優勝」ができたのはこの時だけです。（たぶん）

あとは、昨年の世界選手権も団体6位入賞という結果と初日の5失点という今後の課題が（まだ10ヶ月前ということもありはつきりと記憶に残っている）、その意味では印象深いといえます。

小泉辰喜

今回特に心がけていること抱負

海外での経験が少ないので、翌日からの競技に活かせるようモデルイベントを有効に活用したいと考えています。

トレイル0の大会で心がけていること

大会では、最後まで集中して競技することを心がけています。スタート前には、歩測と目視による距離感の確認をしています。

特に印象深い大会名とその理由

2008年の作手でのインカレトレイル0。解説を読んで、いろいろな課題の解き方がよく理解できた大会でした。

高柳宣幸

今回特に心がけていること抱負

現地の環境に慣れるように心掛け、特に飲料水に注意する。日本の地図は忘れる事と、地図記号の確認

トレイル0の大会で心がけていること

大会前日に、必要な用具、服装、競技中の食料を準備しスタート前は、我が道を行くに徹する事にしており、競技中は、ゴールまで転倒しない様に心掛けています。

特に印象深い大会名とその理由

初めて海外のWTOC2009大会（ハンガリー）に参加出来た事

二日目の、競技スタート後に動物園入口からコースになっていたのが、今でも地図を見ると思い出します。

WTOC2011 フランス大会のゴール会場が広く、フット0Lと一語になっているが素晴らしいです。

森長三

今回特に心がけていること抱負

3年連続のWTOC参加、世界大会の分厚い壁に挑戦しながら何ら満足

（自分の目標）出来てない過去、三度目の正直となるよう頑張りたい。

九州にも似たような浜や、防風林帯がある。複雑な地形や等高線の読み方に気を付け心落ち着け、且つ、集中が途切れないようトレーニングしている。

体力回復も若干向上してきた。手術後1/3に落ちた肺活量も200~300cc増え、歩ける距離も疲れることなく伸びて来た、あと少し、自信が持てるようにしたい。

体全体の切り傷の痛みは辛い、痛

みに勝ち己に克T,0,Lと思っている。競技に集中しているときは、痛みは忘れてる。渡欧も4~5回目、英語が通じるイギリスは楽しさがいっぱい待っている事だろう。世界を相手に競う大会先ずは自分を見失う事なく精神力を高め、トレーニングの実力を出し切る事。

年齢や体力は衰えて来たが、頑固じい星はまだまだ頭は冴える。

トレイル0の大会で心がけていること

連日、今迄の日本国内外の大会で使用した地図や資料をだし、復習し記憶が落ちないように心がけている。

トレイル0の経験不足から読解力の弱さをつくづく感じるし発想が湧かない。三点アタックに心がけよう。

特に印象深い大会名とその理由

新潟、狭山、茅ヶ崎、と日本選手権で使用した場所は、それぞれ特徴があり面白かったが世界は違っていた。

フランスのサヴォア地方、山岳の谷間、片道コースとは言え夏場の草原や山肌、岩を使ったトレインセット、150m離れたダブルフラッグ、紛らわしく複雑なセッターの意図が解った。結果は惨敗。ヨーロッパ各国は似たような所と感じる。

日本の大会は世界を見据えた大会とし1つも2つも前進したい。

車椅子（一年目）、杖（二年目）、で歩行したが疲労はひどかった。三度目は体調を良くし入賞を目指したい。

木島英登

今回特に心がけていること抱負

平常心。日本の大会とは、違う部分も多いので、適応すること。競技者が多く、待ち時間が長かったり、拘束時間も長いので、疲れないこと。

トレイル0の大会で心がけていること

なるべく自然や風景を楽しむようにしています。競技できあがる以上、点数を取るのも大切ですけど、せいかくの時間なので。長い競技時間ときは、集中力を切らさないように、飴やチョコレートなど糖分を補給します。

特に印象深い大会名とその理由

2004年、第一回世界大会 スウェーデン。9月なのに寒かった。運営も手探りで、競技者もこれから。のんびりと家族的な雰囲気でもあった。日本ではまず入ることがない深い森の中に入って、落ち葉を踏みしめながらのコースは楽しかった。

（田中 博）